

「お母さまは、まだ定命がつきていないの」96歳の母の介護に悩んでいる女性への寂聴さんのアドバイスは、「スキンシップを大切に」ということでした――

60代女性 お墓のことを伺いたいんです。

主人が長男で、その両親が亡くなってからは、主人がお墓を守っています。

主人の弟には男の子がなくて女の子しかいないので、「自分たちが亡くなったら、お兄ちゃんのお墓に入りた

い

と言っているんですけど、そういうことっていいのかなと思って。ちょっとわからないのです。

寂聴 私はいいと思います。だって一族じゃないですか。入れてあげると言えば、義理の弟さんの家族だって、安心して死ねるじゃないですか。

## ――入院中の96歳の母に どんな言葉をかければ……

60代女性 はい……わかりました。

寂聴 それとも、あなたに何かここで言えないような、嫌な理由があるの？

60代女性 いえいえ！（会場爆笑）

すみません、もうひとつお伺いしたいんですけど。

寂聴 どうぞ、どうぞ。

60代女性 5年くらい前、週刊誌で寂聴さんが日本尊厳死協会のことをおっしゃっているのを読みまして、私も家族のことを考えて入会したんです。

寂聴 よかったですね。私が入ったのは随分前ですから、会員はまだ数千人でしたけれ

どもいまは12万人になっていきます。

60代女性 その尊厳死のことなんですけど、よくニュースになる安楽死との違いが、実はよくわからないんです。

寂聴 心身ともに元気なうちに、自分が病氣や老衰で死ぬときに、もう死ぬのがわかっているのに人工呼吸器や胃ろうなどの延命治療をしないでください、という意思を残しておいて、平穏に自然な死を迎えるのが尊厳死です。

安楽死というのは、たとえばお薬を注射して殺すとか、お医者さんの積極的な医療行為で亡くなることなのです。ちよつと難しいですか？

60代女性 いえ、よく、わかりました。

寂聴 あなたは、内容をよく調べないで入会なさったようなんですけど、よかったですね。詐欺商法なんかでなくて。（爆笑）

60代女性 はい。

寂聴 尊厳死を望みますという、生きている間の自分の意思をリビング・ウィル（LIVING WILL）と言います。その意思をきちんと登録しておくのが日本尊厳死協会です（TEL 03・3818・6563）。確か1人2千円、夫婦で入ったら3千円と、お得なの（笑）。

まだ日本では法制化されていませんけれども、協会に入

るとくれる名刺くらいの大サイズの証明書を持っていて、入院したときに、お医者さんに見せておく。袋に入れて、ベッドにかけておく。

「ああ、この人は延命処置をしたくないんだな」と、わかりますから、今のお医者さんはほとんどがその意思を尊重してくれます。

もし明確なリビング・ウィルがない人への延命処置をやめたら、「本人は死にたくないで殺した」と、お医者さんや病院を訴える人がいます。まれにですけど、まだちよつともめることもあります。

ですから近い将来に、絶対に法制化されます。

もしリビング・ウィルを残しておかないで入院して、病状が悪化すると、お見舞いに来た子どもや孫たちが、お医者さんから、

「お母さんはもう死にかけているけれども、どうしますか？」なんて、聞かれることがある。

「もう何もしないでください」と、心で願っていても、口に出しては言いにくい。

「やっぱり殺したことになるんじゃないかしら」と、気の弱い人は、そこで悩んで言えない。

それで、「できるだけこのことをしてください」と言うこと

# 聴寂

京都寂庵編

## 「説法虚空」<sup>25</sup>



病院は今の医学でできるだけの延命処置を、いくらでもする。お金も際限なくかかる。

# 言葉はいりません。ただ 手を握つてあげてください

ずっと寝たきりで、いろいろな管を体に付けられてただ生きるだけの延命処置をされるのは、本人だつてつらいでしょう。本人と家族が苦しむために、心身ともに元気なうちに尊厳死のリビング・ウィルを残しておいたほうがいいと、私は思います。

60代女性 日本尊厳死協会の申込書に「なんでこの会を知りましたか」という質問欄があったので、「寂聴さんの法話のご本で知りました」と書きました。  
寂聴 ありがとうございます。何もご褒美くれないんですよ。(大笑)

「お母さんは心がお丈夫なのね。きつと100歳近くまで生きます」

50代女性 母が94歳で人工透析になって、2年前から入院しています。

それまで40年も短歌を作り続けていたのに、今年のお正月は全然作れなくなつて、96歳のいまは、もう水も食事も制限されています。私は毎週2回は会いに行くんですけど、食べものもあんまり食べさせられないし、どのような言葉をかけていいのか、このころすごく悩んでいて……。

寂聴 人は93歳くらいで、だいたい亡くなるの。(会場爆笑)  
そこを通りすぎたら100歳近

くまで生きます。お母さんは非常に心がお丈夫なのね。ついでこの間まで短歌を作っていたなんて、すごいじゃないですか。それが作れなくなつたということとは、もう本来のお母さんではなくなつていて、死なない。

そういうときのお見舞いに、言葉は何もいらない。言葉をかけたつて通じません。スキンシップ。手を握つてあげて、背中をさすつてあげて、とにかく体に触れることで、「私に来てくれるのよ」と伝えてください。それだけでお母さん

は、ちゃんとわかつてくれます。

50代女性 以前は姉が母の近くに住んでいたんですけど、東京に住む息子のところに行つちやつたんです。私が病室に行つても、私がひがむぐらいい、姉のことばかり言うんですよ。

私がそばにいるのに。それはひがんでしまう私が、自分ですごくイヤになつて……。

寂聴 それが言いたかつたのね、あなたは(笑)。しょつちゅう見舞つてくれる娘なんかかわいくない。(爆笑)

50代女性 きつと、そうなんです。目を閉じたまま、いつも姉のことばかり話して、褒めまくるんです。

寂聴 いいじゃない。お母さんはあなたにだから言えるんです。甘えているのよ。「そうね、そうね」つて聞いてあげなさい。

50代女性 私は、ただ手や足を触つたり、そんなことだけでいいでしょうか。

寂聴 それがいいんです。言葉なんかかけなくていい。た



ださすつてあげて、「今日も来たわよ」と伝えてあげてください。

50代女性 そうですね。ありがとうございます。

寂聴 お母さまはまだ定命(じやうめい)がつかないの。やがて自然に、安らかに亡くなります。

(次回に続く)